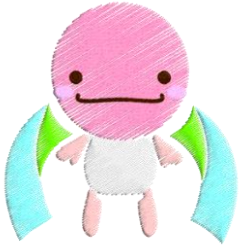




兵庫県立いなみ野特別支援学校 支援部 (TEL:079-492-6161) R8.9.25

発行 第5号

※本紙は本校ブログにも掲載しています。



支援だより「いなみ野」をご覧の皆様こんにちは。残暑が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。くれぐれも体調にはお気をつけてください。2学期の学校生活が始まりました。前々回3号での行動支援の記事の中で注目を与えない支援についてご質問を頂いたので5号では好ましい行動が出るための「教育的無視」を活用した支援方法について掘り下げてみたいと思います。

ポイント 好ましい行動が出るまで待つ！

「教育的無視」＝「子どもの好ましくない行動に注目しない」

「教育的無視」は「ほめる」とことと組み合わせて使うことに意味があります。教育的無視は「子どもの好ましくない行動に注目しないこと」ですが、その後の注目に大切な役割があります。教育的無視の後、好ましい行動をほめることで、子どもには「どの行動がよいのか」がわかり、親が子どもの存在を無視しているのではないことがわかります。しかしながら、「好ましくない行動を無視していたけれど、ほめるのを忘れてしまった。」ということや「結局腹が立って叱ってしまった」ということは実際によくあることです。そんな時は、あらかじめ、ほめる行動（好ましい行動）を具体的に考えておくことで解決できます。子どもの行動がこのように変わったら、このようにほめようということを「代わりにしてほしい行動」として書き出しておくことが役立つでしょう。

「代わりにしてほしい行動」は、待てば出現するかもしれない好ましい行動です。

例①

- ・好ましくない行動→お菓子売り場で「お菓子買って！」と騒ぐ。
- ・代わりにしてほしい行動→親が「買わない」と言うのを受け入れて、一緒に歩く。
- ・代わりにしてほしい行動を「子どもがやれる」かどうか考えることも必要です。

例②

- ・好ましくない行動→スーパーマーケットで走る。
- ・代わりにしてほしい行動→親と手をつないで歩く／カートを押すのを手伝う／いくつかの商品を探すなど

「教育的無視→好ましい行動を待つ→ほめる」という一連のプロセスを実行するには、その好ましくない行動が起こる状況や、代わりにしてほしい行動、自分自身がどうするべきかといったことを整理して書き出すといいでしょう。困難な状況でも予測して備えることは大人の感情をコントロールする上でも効果的です！

*好ましくない行動をやめないとき、どうしたらいい？



難しいところですが、その後に備えます。「このときほめられなくても、お風呂の時間にほめよう!」「今回はあきらめて、明日は状況(時間・場所・人)を変えてみよう」などオプションをいくつか考えておきましょう。

参考文献：応用行動分析学入門ハンドブック 著 三田地 真美



学校行事予定

◆夏休み立体作品展(～10/7)

◆10/1 高2かこがわ清流・東はりま交流会

◆10/2・10/5～10/7 保護者懇談 ◆10/5 高3交通安全教室

◆10/6 不審者対応訓練 ◆10/8 高1・高2交通安全教室 ◆10/13 小1遠足

◆高3現場(前提)実習 10/13～10/16、10/19～10/23、10/26～10/30

◆10/15 小2校外学習、月曜の時間割 ◆高2宿泊学習 10/15～10/16

◆10/16 高2現場見学 ◆10/20 高1現場見学① ◆10/21 小3学校間交流(天満小)

◆中3修学旅行 10/21～10/22 ◆10/22 高1現場見学② ◆10/23 小5遠足

◆高2職能評価 10/26～10/29 ◆10/27 あおの訪問学級とのオンライン交流(小学部)

◆10/30 中1社会体験学習(施設見学)



支援ミニコラム

『第1回明石・加印地区高等学校特別支援教育コーディネーターネットワーク連絡会議』が開催されました!

本会議は、東はりま特別支援学校、かこがわ清流特別支援学校及びいなみ野特別支援学校のセンター的機能の対象地域である明石・加印地区において、高等学校の特別支援教育コーディネーターのネットワークを構築し、情報共有や協議を行うことで、各校における特別支援教育の取り組みや支援体制の充実、対応の円滑化を図ることを目的として、毎年2回開催しています。一つの高校の中だけでは解決が難しい問題もあることから、こうした横のつながりを作ることも、本会議の大切な目的の一つとなっています。

7月22日(水)には、令和8年度第1回ネットワーク連絡会議を開催しました。今年度は新たにかこがわ清流特別支援学校が加わり、高等学校における特別支援教育が、より一層充実したものになっていくことを期待しています。

前半は、ひょうご発達障害者支援センター長の和田康宏先生をお招きし、「発達障害のある高校生・大学生への就労支援」をテーマにご講演をいただきました。後半はグループワークを行い、「コーディネーターとして大切にしていることや、現在課題と感じていること」について話し合いました。オブザーバーとしてご参加いただいた兵庫大学の劔物和弘先生からは、大学における障がいのある学生支援のご経験を踏まえ、高校現場の現状についてご助言をいただきました。

今回の会議を通して、未診断・グレーゾーンの生徒への支援、保護者との連携、就労支援機関とのつながりなど、各校に共通する課題について意見交換ができました。一方で、今後はより専門的なケース検討や具体的な実践事例、企業や関係機関の情報交換を行っていく必要性も感じており、このネットワークをさらに充実させていきたいと思っています。

